

第273回 番組審議会

1. 日 時 平成30年6月12日（火） 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 8名
出席委員数 8名（欠席委員数 0名）

○ 出席委員（敬称略）

鈴木 厚人（委員長）
砂子田 智（副委員長）

—以下50音順—

石田 征広
加藤 裕一
菅原 正二
苫米地美智子
八木橋 伸之
役重 真喜子

○ 会社側出席者（6名）

藤澤 利憲（代表取締役社長）
小原 忍（取締役副社長）
前田 秀男（取締役技術担当）
高嶋 昇（取締役営業編成局長）
一戸 俊行（報道制作局長）
鎌田 淑子（報道制作局制作部チーフディレクター）

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『FNSドキュメンタリー大賞

よっちゃん 命の大切さを伝えた紙芝居「つなみ」』

平成30年5月26日（土）15：00～15：55

5. 議事概要

今回は、5月26日土曜日午後3時から放送の『FNSドキュメンタリー大賞 よっちゃん 命の大切さを伝えた紙芝居「つなみ」』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道制作局 一戸局長からの説明

・田畑ヨシさんとは、26年ほど前のヨシさんが50代だった頃に取材させてもらい、防潮堤を歩きながら昭和三陸大津波の話を聞かせてもらった。今になって、あの紙芝居は津波で亡くなった方への鎮魂歌だったのかなと感じている。

・東日本大震災があつて、真っ先に頭に浮かんだのは、田畑ヨシさんが逃げて無事だったのかということ。その後、青森市に住んでいることが分り、できれば青森から田老に戻って紙芝居を読むようなところを番組にできればと思っていたが、今年2月に亡くなられた。ヨシさんの生き方の尊さを残しておきたいと思い今回番組にした。

●岩手めんこいテレビ制作部 鎌田ディレクターからの説明

・田畑ヨシさんに会ったのは2年位前のことで、青森で暮らし始めていて、二つ目の紙芝居『つなみふたたび』を書いた後のことだった。90歳を超えてもとてもお元気で、100歳を超えてもお会いできるのではないかと思った。そういった部分でドキュメンタリーにできればと思っていたが、2月下旬にお亡くなりになったという知らせが届き、慌しい形だったが5月に放送することが決った。

・ナレーションは、ヨシさんのお孫さんの池田三紗さんをお願いした。ヨシさんが紙芝居を作ったきっかけが三紗さんだったことを聞いて、またヨシさんの血を受け継いだ熱い方で、表現も豊かで、ぜひ読んで頂きたいと思い決めた。霊安室での映像は、賛否あると思う。ご家族の許可を頂き、ヨシさんの生きる

命という部分が伝わるだろうと、放送する意味があるのではないかとということで放送に至った。番組を見終わった後、娘の恵美子さんから「ありがとう」と言って頂き、制作して良かったと思った。今後も誰かのためになる番組を作っていけたらと思っている。

●出席した委員からの意見

- ・番組を見ていて、抑揚のない声で語って聞かせる紙芝居のシーンが一番良かった。
- ・紙芝居が、全体で何分なのか、何コマの絵を使っているのか、どういう人を対象にして、どの範囲でやっているのかが分らなかった。海外の教科書にもなっているといた情報を入れないと、ヨシさんがすごいという輪郭が見えてこない。初心者にも分るような情報を入れると良かったのではないか。
- ・非常に悲惨な出来事を淡々と描いたところが良かった。
- ・ヨシさんのご遺体を映したのは自然だったし、半分衝立で隠れている映像も良かった。エンディングをきちっと描いたという点で、格調高い番組だった。
- ・亡くなった後、スケッチブックに田老の昔の絵が描かれていて、ずっと田老にいたかったんだろうなという思いがした。切ない番組だった。
- ・分りやすさという点で、もう少し工夫できたのではないか。最初に3度の津波の基礎情報を出すとか、ヨシさんが大正14年生まれということも最初に出してもらえると良かった。
- ・2作目の紙芝居『つなみふたたび』で、「海のバカヤロー」で「海よありがとう」と言った言葉が響いた。非常に良い言葉を拾ったなど、見ていて感動した。
- ・全体的に良くまとめられて、真面目に作られていて、好感が持てる番組だった。

・田老という一つの町の中で、田畑ヨシさんという方が、色んな意味合いを含んで、非常に感動的な番組だった。

・こういう時代に、紙芝居がどれだけ力を持っているのかと思った時に、実際経験した人の言葉というものが、重いものだと感じさせられた。

・8歳の時に津波で母を亡くして辛い体験をしているけれど、笑顔で、人柄というか、精神力の強さを見られて、「ヨシさん、好きだな」と思った。

・ご遺体を映す角度も配慮していて、見ている人はいろんなことを感じる場面だと思った。特に「命」「家族」というものを感じるところだったのかなと思った。

・お孫さんのナレーションで「私のお婆ちゃんが」と言って入ったところが、視聴者の関心がスッと入り、番組が成功していると思った。

・番組のテーマが「防災教育」「伝承」であると同時に、それ以上に1人の女性の生き方、ある家族の物語という風に作られていたのかなと強く感じた。

・震災遺構を残すとか残さないとか、メモリアルパークがどうかこうとかということではなく、一番大事なのは自分の大事な家族、子ども、孫にそれをちゃんと伝えていくことなんだということ、番組ではナレーションしていなかったが、見ている人にはすごく伝わった。

・田畑ヨシさんが発してきたことを、一番最初に聞いた地域の人、子ども達は、もう親になって次の世代への語りや伝承に繋がっていることもあると思うので、そういう情報も見せてもらえるとうよかった。

・ヨシさんが亡くなったシーンから、涙が止まらなくなった。悲しいというのは、また違った思いで泣いてしまった。

・ご遺体を映像にすることについて、ご遺族が納得していたのだろうかというところが引っ掛かった。ご遺族から「ありがとう」と言って頂いたとのことだ

が、事前に了解をもらうべきものなのか、そうでないものなのか。撮って伝えたいという人と、伝えられてしまう映像の中の人の気持ちをどういうふうに整理するのか、それが気になった。

・心に訴えてくるような、滲み出るような感じの番組で、非常に良い番組だと思った。

・「言葉というのは、体の中に入ってから爆発するのが良い。体の中に入る前に爆発しては何の効果もない」と聞いたことがあったが、ヨシさんの淡々とした読み方をきいて、こういうことを指すんだと初めて分った。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び

年月日

※平成30年6月13日(水) 産経新聞 東北版

※平成30年6月23日(土) 午前4時12分から4時15分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし

※次回は、平成30年7月10日(火)12時より当会場にて開催予定です。